

大同(9年ぶり10回目)、オムロン(8年ぶり11回目)が頂点に

~第30回日本ハンドボールリーグ® ANAカップ』プレーオフ~

第30回日本ハンドボールリーグは3月18、19日駒沢体育館(東京)でプレーオフが行われ、男子・大同特殊鋼、女子・オムロンがレギュラーシーズン1位の実力を発揮、大崎電気のV2を阻止した大同特殊鋼が9年ぶり10回目、オムロンは8年ぶり11回目の栄冠獲得となり、ここまで7年連続してタイトルを保持してきた広島メイプルレッズはついに女王の座を明け渡した。なお勝負所で強打、巧打を炸裂させた大同・白元皓、好セーブ連発で勝運を導いたオムロン・GK勝田祥子が最高殊勲選手賞を獲得した。

大同・大崎の男子決勝は、末松、李才佑、白でいきなり5連取した大同に対し、大崎も4分過ぎから東のポストを皮切りに豊田、岩本らで6点連取と、ゲームの行方はまったく予断を許さぬ展開となった。このあと大同はGK高木が好セーブを連発、大きなパス展開から末松のサイド、富田のポストなどで加点して13分9-7と先行すると、そのままペースを握り17-13と4点をリードして前半を終えた。

後半に入っても活発な打ち合いが続いた。6分18-23と劣勢の大崎が宮崎、中川らで得点ペースをあげ、8分21-23と2点差まで詰め寄ると、ここからは大同・白、大崎・宮崎の両エースがスーパーシュートの応酬で館内の興奮もグーンとヒートアップ。大崎は猪妻の速攻、宮崎のミドルで18分28-28とついに同点。両者の息詰まる熱戦は30-30で迎えたラスト10分の攻防にすべてがかけられた。ここから再びペースをつかんだのが大同。ルーキー富田のポストで得た7mTを白が決めると、両サイドから松林、山本がゲットして33-30。この3点が大崎に重くのしかかった。大同は白が変幻自在のシュートでゴールを量産、中川の気迫あふれるミドル3発で必死に追撃する大崎に手痛いダメージを与え、28分には末松のステップシュートで38-34として試合を決定づけた。

女王・メイプルレッズの8連覇がなるか、それともオムロンが8年ぶりにタイトルを奪い返すのか 女子決勝の序盤は東濱のロング、許順栄のポストで加点するオムロンに対し、メイプルレッズも吳成玉のステップ、青戸のポストなどで応戦して互角の滑り出しだった

しかし、8分を過ぎたあたりから洪廷昊、許、坂元の強力DFでメイプルレッズに好リズムを与えないオムロンは、13分メイプルレッズ・林の退場を機に流れをつかみ、佐久川のサイド、許のポストで12-8と混戦を抜け出した。このあと2人の退場を出したピンチをGK勝田の好セーブで乗り切ったオムロンは、ロング、カットインと6点を奪う東濱の大活躍もあり18-10と大きく水をあけて前半を折り返した。

後半に入ってもオムロンの快調なペースが続いた。安心院を起点としたパスワークから許、佐久川らが加点、水野の速攻などをからめて5分21-11と大量リード。土屋のポスト、菅野のカットインなどでなんとか挽回を図りたいメイプルレッズだったが、その前に大きく立ちはだかったのがGK勝田。前半で2本、後半は3本の7mTをシャットアウトしたのをはじめ、スーパーセーブの連続でメイプルレッズの追従を許さず、そのまま勢いをキープして8年ぶりのタイトル奪還に成功した。



④ 9年ぶり優勝を果たした大同特殊鋼・末松
⑤ 8年ぶりの頂点に立ったオムロン・東濱



大同特殊鋼・白元皓



オムロン・勝田

MVP

男女準決勝 上位チームが順当に勝利

男子準決勝の1試合目はレギュラーシーズン1位の大同特殊鋼に4位のトヨタ紡織九州が挑んだ。両チームとも高いDFラインで激しい攻防を展開、3分過ぎトヨタ紡織・呉相民のカットインから得た7mTで先制点を奪うと、すぐに大同も李才佑、白皓の連続速攻で逆転して試合が動き始めた。その後、李、白、末松らの活躍で20分14-7と優位に立った大同に対し、トヨタ紡織もGK谷川の好守で失点を最小限に食い止め正鎮、佐久間らで加点、17-12と大同5点リードながらトヨタ紡織が後半の逆襲を期待させる勢いを感じさせて前半を終えた。

後半も両チームGKの好守が続き、5点差のまま残り10分の攻防に。トヨタ紡織は石黒、佐久間、村上秀の3連取で21分23-26と3点差に迫り、がぜん反撃ムードが高まった。

しかし、地力に勝る大同は、この直後に紡織・朴が退場したチャンスを見逃さず、山本のサイドと武田、畠中の連続速攻でたたみかけて主導権を奪回。その後も佐久間のサイドなどで必死に追いつがるトヨタ紡織を残り3分から末松、白の連打で突き放し、9年ぶりの日本リーグ制覇に王手をかけた。チャレンジャーのトヨタ紡織は果敢な攻守で何度も僅少差に迫ったが、そのたびに大同に連続得点を許して涙をのむ結果となった。

続く準決勝2試合目は、東らの3連打で好スタートを切った大崎電気に対し、湧永製薬も古家、小沢のミドルで応戦、GK坪根の好セーブもあってすぐさま互角の展開に持ち込んだ。その後、大崎は中川らが力強いシュートを連発して先行するが、エース宮崎が湧永の高いDFの壁に苦しんで思うように得点ペースが上がらず、混戦を抜け出せないまま時間が経過した。

大崎12-10と2点リードで迎えた後半も両チーム譲らぬ展開。湧永は開始早々からセンター小藪が小気味よく加点、2分12-12と並んだあと先行する大崎をピタリと追走して2度、3度と同点に追いつき、11分には大崎・宮崎のシュートを阻んだGK坪根からのパスが浜本につながり、16-15と待望のリードを奪った。

しかし、このあと大崎はGK陣の踏ん張りで失点を最小限に食い止め、15分過ぎに湧永・小藪が退場したパワープレーのチャンスにベテラン森本がサイドシュートを決めると、さらに猪妻の速攻でたたみかけて17分19-16と3点リード。その後宮崎に代わって出場した加藤や中川のミドルが要所で決まり、小沢の速攻などで必死に食い下がる湧永の反撃をしのいで25-22で勝利を握った。

女子準決勝はV8を狙う広島メイプルレッズ(リーグ2位)と、3位ながら第20週でメイプルに快勝しているソニーセミコンダクタ九州との対戦。前半9分まで6-6と互角の展開だったが、メイプルレッズが監督兼任の林五郎と呉成玉のコンビプレーを軸にソニーの3:2:1DFを巧みに切り崩し、青戸のポスト、大前のサイドなどをからめて13分9-6、16分には13-7と先行した。この日、守護神・浅井に代わってゴールを守った高森が再三の好セーブでソニーのシュートチャンスを阻んだのも光った。

その後もメイプルレッズががっちりと主導権を握り、19-11と大量8点リードしてリターン。後半も5分22-14と8点リードをキープするメイプルレッズが快調に飛ばした。

ここまでメイプルレッズの一方的な展開だったが、ようやくソニーも反撃開始。6分過ぎからメイプルレッズの退場やミスに乘じて田中の連続速攻などでゲンゲンとペースを上げ、11分18-23、14分には21-24と射程圏内にメイプルレッズを捕らえた。その後、メイプルレッズに3連取を許したもの、23分までに高橋のポストなどで4連取して23分25-27、28分には山田早のサイドが決まり28-29と肉薄した。

しかし、勝利にかけるメイプルレッズの執念はすさまじく、このピンチに林、呉のポストをからめたコンビプレーで貴重な連続得点を奪い、ソニー必死の反撃を退けてオムロンが待つファイナルへと駆け上がって行った。



大崎電気・宮崎



湧永製薬・下川



トヨタ紡織九州・石黒



広島メイプルレッズ・土屋



ソニーセミコンダクタ九州・長野



優勝旗を受ける大同特殊鋼・松林キャプテン



8年ぶりの優勝を喜ぶオムロンセブン

3月18日(土) 女子準決勝		
東京・駒沢体育館		
広島メイプル	19 - 11	ヨニセミコダ
レッズ	31 (12 - 17)	タ九州
リーグ2位	28	リーグ3位
K 高 森	中 島	K <2/3>
0/ 0 土 産	郭 恵 静	3/ 6
0/ 0 青 戸	長 野	3/ 9
7/ 9 青 戸	山 田	1/ 1 2/3
3/ 6 大 前	中 田	6/10
0/ 0 河 本	石 崎	0/ 0
2/3 5/ 5 林五郎	山 田	3/ 3
4/ 5 菅 野	水 田	0/ 0
0/ 0 坪 井	高 栖	5/ 6
1/1 5/ 8 吳成玉	出 雲	0/ 0
0/ 0 坂 口	飛 田	K <1/7>
<1/3> K 浅 井	寺 田	1/ 1
4/ 6 0/ 2 杉 本	東	0/ 0
0/ 0 石 山	金 城	4/ 9
7/10 24/35 10(FPP)8	26/45 2/3	
審判 (Maric・Gardinovacki)	観客	937人

3月18日(土) 男子準決勝		
東京・駒沢体育館		
大同特殊鋼	17 - 12	トヨタ紡織
リーグ1位	31 (14 - 15)	九州
	27	リーグ4位
K 荻 田	中 富	K <0/4>
0/ 0 松 林	村 上 直	1/ 5
10/18 末 松	植 木	1/ 3
0/ 0 中 谷	村 上 秀	0/ 1
0/ 1 市 原	吳 相 田	3/ 4
2/ 2 武 田	佐 久 間	2/ 8 2/2
1/ 4 畠 中	鶴 田	6/10
0/ 0 大 田	田 中 慎	0/ 0
4/ 9 李 才 佑	阪 田	1/ 2
<1/3> K 高 木	谷 川	K <1/4>
1/ 2 山 本	石 黒	7/ 9 0/1
4/ 5 8/11 白 元 基	松 野	K <0/1>
0/ 0 富 田	朴 正 鎮	4/ 7
1/ 5 渡 久 川	船 木	0/ 0
4/5 27/52 24(FPP)10	25/49 2/3	
審判 (浜田・小笠原)	観客	1549人

3月18日(土) 男子準決勝		
東京・駒沢体育館		
大崎電気	12 - 10	湧永製薬
リーグ2位	25 (13 - 12)	リーグ3位
K 荻 田	下 川	1/ 2
1/ 1 加 藤	小 野	0/ 0
0/ 0 前 田	浜 本	2/ 3
3/ 9 中 川	山 中	0/ 2
0/ 0 佐 藤	福 田	0/ 0
3/ 3 永 島	小 薮	6/13
4/ 8 岩 本	東 長 濱	0/ 0
1/1 2/ 2 森 本	東	2/ 9
0/ 0 2 太 田	坪 根	K <0/1>
<0/2> K 濱 口	小 沢	5/ 9 2/2
4/ 4 東	杉 山	0/ 0
K 石 原	松 村	K
4/ 4 猪 妻	古 木	3/11
1/11 宮 崎	山 口	1/ 2
1/1 24/54 13(FPP)11	20/51 2/2	
審判 (仲田・植村)	観客	2087人

第3回東アジアクラブ選手権
この第3回日本リーグの上位2チーム(男子・大同特殊鋼、大崎電気、女子・オムロン、広島メイプルレッズ)は2006年4月14～16日、京都市体育館で開かれる第3回東アジア選手権への出場権を獲得した。
大会は日本のほか韓国、中国から各代表チームが参加。4チームによる総当たりリーグで優勝が争われる。
第1回(韓国)は男子・斗山(韓国)、女子・三陟市庁(韓国)が優勝(日本男子・ホンダ2位、女子・広島メイプルレッズ3位)。第2回(中国)は男子・KOROSA(韓国)、女子・広島メイプルレッズが優勝(日本男子・大崎電気2位)している。

3月19日(日) 女子決勝
東京・駒沢体育館

オムロン 32 (18 - 10) 26 広島メイプル		
リーグ1位		リーグ2位
<5/8> K 勝 田	高 森	K <0/4>
2/ 5 水 野	土 屋	4/ 5
2/ 6 安心院	樹 山	0/ 1
8/11 許順栄	青 戸	2/ 3
0/ 0 西 本	大 前	5/ 7
6/ 6 0/ 0 吉 田	林五郎	0/ 5 0/2
6/ 8 佐久川	菅 野	4/ 6
0/ 0 坂 元	坪 井	0/ 0 2/2
1/ 1 久 野	吳 成 玉	4/ 9 0/1
<0/2> K 藤 間	成 玉	0/ 0 2/2
0/ 0 城 内	坂 口	0/ 0
0/ 0 卷	浅 井	K <0/2>
7/11 東 濱	杉 本	2/ 2 2/4
0/ 3 洪廷昊	石 山	0/ 0

6/6 26/45 20(FPP)13 21/38 5/10

審判 (家永・福島) 観客 2824人

3月19日(日) 男子決勝
東京・駒沢体育館

大同特殊鋼 39 (17 - 13) 35 大崎電気		
リーグ1位		リーグ2位
K 荻 田	豊 田	4/10
1/ 1 松 林	加 藤	0/ 0
10/15 末 松	前 田	0/ 0
0/ 0 原 佐	中 川	7/ 9
0/ 0 原 佐	佐 藤	1/ 1
2/ 6 武 田	永 島	0/ 0
0/ 0 畠 中	岩 本	4/10
0/ 0 大 田	森 本	0/ 0 1/1
8/12 李 才 佑	太 田	1/ 2
<0/2> K 高 木	濱 口	K <0/1>
4/ 5 山 本	東	4/ 5
1/1 10/17 白 元 基	石 原	K
3/ 3 富 田	猪 妻	4/ 9
0/ 0 渡 久 川	宮 崎	8/14 1/1

1/1 38/59 4(FPP)9 33/60 2/2

審判 (Maric・Gardinovacki) 観客 3468人

【個人表彰】

男子1部		
・最 高 殊 勲 選 手 賞	白 元 基 (大同特殊鋼)	初
・最 優 秀 監 督 賞	在 源 (大同特殊鋼)	初
・殊 勲 選 手 賞	宮 崎 大 輔 (大崎電気)	初
・得 点 王	白 元 基 (大同特殊鋼)	150点 2回目
・フ ィ ー ル ド 得 点 賞	宮 崎 大 輔 (大崎電気)	122点 初
・シ ュ ー ト 率 賞	東 俊 介 (大崎電気)	0.770 初
・7 m スロー 得 点 賞	白 元 基 (大同特殊鋼)	41点 初
・7 m スロー 阻止率 賞	高 木 尚 (大同特殊鋼)	0.364 初
・最 優 秀 選 手 賞	白 元 基 (大同特殊鋼)	2回目
・ベ ス ト セ ブ ン 賞	G K 坪 根 敏 宏 (湧永製薬)	6回目
C P 豊 田 賢 治 (大崎電気)	2回目	
村 上 秀 行 (トヨタ紡織九州)	初	
山 口 修 (湧永製薬)	5回目	
白 元 基 (大同特殊鋼)	3回目	
岩 本 真 典 (大崎電気)	3回目	
宮 崎 大 輔 (大崎電気)	2回目	
永 島 英 明 (大崎電気)	2回目	
・ハ ス ト テ ィ フ ェ ン タ - 賞	湧 永 製 薬 98点/18試合 (5.4点/試合)	
・フ ェ ア ブ レ 賞	嘉 之 (トヨタ紡織九州)	
女子1部		
・最 高 殊 勲 選 手 賞	勝 田 祥 子 (オムロン)	初
・最 優 秀 監 督 賞	慶 泳 (オムロン)	初
・殊 勲 選 手 賞	菅 野 喜 恵 (広島メイプルレッズ)	初
・得 点 王	田 中 美 音 子 (ヨニセミコダタ九州)	92点 4回目
・フ ィ ー ル ド 得 点 賞	郭 恵 静 (ヨニセミコダタ九州)	92点 2回目
・シ ュ ー ト 率 賞	郭 恵 静 (ヨニセミコダタ九州)	79点 3回目
田 中 美 音 子 (ヨニセミコダタ九州)	0.667 初	
青 戸 あ か ね (広島メイプルレッズ)	0.667 初	
吉 田 祥 子 (オムロン)	38点 初	
高 森 妙 子 (広島メイプルレッズ)	0.375 初	
田 中 美 音 子 (ヨニセミコダタ九州)	2回目	
G K 勝 田 祥 子 (オムロン)	初	
C P 大 前 典 子 (広島メイプルレッズ)	2回目	
佐 久 川 ひ と み (オムロン)	5回目	
青 戸 あ か ね (広島メイプルレッズ)	2回目	
東 濱 裕 子 (オムロン)	初	
郭 恵 静 (ヨニセミコダタ九州)	2回目	
田 中 美 音 子 (ヨニセミコダタ九州)	9回目	
坂 元 智 子 (オムロン)	初	
・ハ ス ト テ ィ フ ェ ン タ - 賞	ヨニセミコダタ九州 93点/12試合 (7.8点/試合)	
・フ ェ ア ブ レ 賞	谷 口 尚 代 (北国銀行)	
男子2部		
・最 多 得 点 賞	桜 井 涉 (北陸電力)	68点 初
福 田 拓 馬 (トヨタ自動車)	68点 初	
・フ ィ ー ル ド 得 点 賞	神 田 友 和 (北陸電力)	59点 3回目
・シ ュ ー ト 率 賞	高 橋 準 (北陸電力)	0.609 3回目
・7 m スロー 得 点 賞	桜 井 涉 (北陸電力)	35点 初
・7 m スロー 阻止率 賞	安 藤 功 規 (北陸電力)	0.294 2回目
佐 藤 優 (トヨタ自動車)	0.294 初	
C P 高 橋 準 (北陸電力)	初	
桜 井 涉 (北陸電力)	2回目	
落 合 信 也 (北陸電力)	2回目	
神 田 友 和 (北陸電力)	4回目	
田 中 將 (H C 東京)	初	
福 田 拓 馬 (トヨタ自動車)	初	
佐 藤 豪 洋 (豊田合成)	初	
・ハ ス ト テ ィ フ ェ ン タ - 賞	豊 田 合 成 76点/9試合 (8.4点/試合)	
・フ ェ ア ブ レ 賞	水 野 裕 矢 (H C 東京)	
・最 優 秀 新 人 賞		

第30回日本ハンドボールリーグ成績表 全日程終了

順位	1部男子	大同特殊鋼	大崎電気	湧永製薬	トヨタ紡織九州	ホンダ	トヨタ車体	ホンダ熊本	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	大同特殊鋼		33 30 40	32 27 29	37 37 32	35 35 30	37 30 31	32 36 40	18	16	0	2	32	603	503	100
2	大崎電気	32 37 36		32 28 33	29 39 40	41 35 40	39 37 36	32 38 40	18	14	0	4	28	644	529	115
3	湧永製薬	31 28 21	31 33 36		25 26 23	28 36 34	28 24 29	25 24 31	18	12	1	5	25	513	473	40
4	トヨタ紡織九州	31 28 31	28 30 26	24 28 24		32 30 26	25 38 29	31 32 32	18	8	0	10	16	525	544	-19
5	ホンダ	30 30 26	32 27 23	21 28 29	30 25 36		27 25 34	33 31 35	18	6	1	11	13	522	544	-22
6	トヨタ車体	30 21 29	20 29 33	24 23 29	30 26 33	25 25 24		31 36 36	18	5	2	11	12	504	551	-47
7	ホンダ熊本	20 21 21	26 31 21	15 23 24	26 22 28	24 20 24	28 25 29		18	0	0	18	0	428	595	-167

上位4チームはプレーオフで順位を決定する。

順位	1部女子	オムロン	メイフルレッス	ソニー	北国銀行	HC名古屋	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	オムロン		27 29 26	28 26 39	30 25 26	38 35 28	12	10	0	2	20	357	279	78
2	広島メイフルレッス	30 25 24		42 31 28	32 30 33	28 26 40	12	9	0	3	18	369	307	62
3	ソニー・セミコンダクタ九州	25 25 28	37 30 42		34 29 32	39 41 33	12	7	0	5	14	395	344	51
4	北国銀行	21 23 28	27 18 18	31 22 26		29 26 30	12	4	0	8	8	299	339	-40
5	HC名古屋	20 11 19	24 14 15	22 20 29	20 20 28		12	0	0	12	0	242	393	-151

上位3チームはプレーオフで順位を決定する。

順位	2部男子	北陸電力	HC東京	豊田合成	トヨタ自動車	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	北陸電力		23 27 26	29 39 39	28 30 36	9	9	0	0	18	277	196	81
2	HC東京	21 20 23		35 38 34	24 28 25	9	6	0	3	12	248	211	37
3	豊田合成	18 19 28	28 29 22		25 25 24	9	2	0	7	4	218	284	-66
4	トヨタ自動車	24 24 19	20 19 17	28 19 23		9	1	0	8	2	193	245	-52